

97 渥美半島の中位段丘構成層福江層

田原市には中位段丘面である福江面が広く分布し、福江面を構成する堆積物を福江層と呼びます。



渥美層群を河川が侵食作用によって、刻んだ谷を埋積したものです。福江層は、豊橋層を河川が削ってできた谷（開析谷：MIS5e*より前の海退期に下刻されたもの）を埋積する赤羽根泥部層とそれを整合に覆い、福江面を形成する若見礫部層に区分されます。分布が広いことや段丘面の対比からから、この面はMIS5eの下末吉海進によって形成されたと考えられています。

赤羽根泥部層は田原市赤羽根町から若見にかけての海食崖に分布しており、下部の砂礫層と上部の泥層に分けられます。下部の砂礫層は河川成の中-大礫サイズの扁平な亜円礫からできており、上部の泥層は谷を埋積した堆積物で、淘汰が悪く、中礫サイズの円礫を含んでいます。植物遺体が多く含まれ、上部には貝化石も報告されています。海水準の上昇とともに河川域から徐々に海域へと変遷したこと（海進期における浅海の堆積環境）が推定されます。

若見礫部層は赤羽根泥部層を整合で、豊橋層及び秩父帯ジュラ紀付加コンプレックスや三波川変成コンプレックスを不整合で覆っています。平行層理の発達した中礫サイズの扁平な亜円礫層からできています。粗粒な砂層や細粒の砂層と泥層などが薄層として挟まれています。淘汰のよい砂礫層から礫質な海浜の堆積環境で形成された

と考えられます。本部層は赤羽根泥部層堆積後の海退期に形成されたものと考えられます。

田原市若見町の若見礫部層→



*MIS5e : 約 13 万年前の最終間氷期で、温暖で海水準がより高かった時期

野田層（野田泥層）と始良 Tn テフラ（AT）

野田層は福江面や扇状地面よりも低位の野田面と呼ばれる段丘面の構成層です。基底部には約 50 cm～1 m の厚さの中礫サイズの角礫を含む砂礫層がみられ、その上位には約 1～2 m の淘汰の悪い炭質泥層、約 50 cm の黒褐色土壌が重なっています。河川の氾濫原や湖沼などの淡水域堆積物と考えられています。最上部には始良 Tn テフラ（AT）（2.9 万～2.6 万年前の火山灰層）を挟んでいます。以前は田原市野田で観察できましたが現在は消失しています。野田の保井橋、法雲寺橋のものは淡灰色でわずかにピンク色を帯びる中粒のガラス質火山倍で新鮮です。田原市村松南西の露頭（完新統）では露頭中段から 1m ほど下に細礫層に挟まった層厚 8cm のアカホヤ火山灰に酷似した火山灰（未発表）が発見されています。現在は樹木に覆われて見られません（POINT は「あいちの地質 99 96 田原市秩父帯の断層鏡肌」を参照してください）。



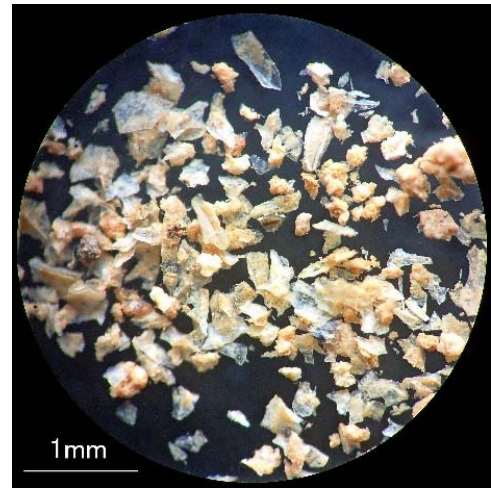
田原市野田 保井橋の AT（1982 年撮影 現在は消失）



始良 Tn 火山灰 左：保井橋



右：法雲寺橋



田原市村松のアカホヤ火山灰に酷似した火山灰（未発表）（中尾宜民氏提供 1983 年 7 月撮影 顕微鏡写真は著者撮影）

天伯原礫層

上位に風によって運ばれた赤褐色土壌が載る礫質な海浜堆積物です。礫は淘汰のよい細～中礫サイズで平板状の円～亜円礫で、大礫サイズの亜円礫もみられます。基質は砂ですが礫同士が支えあう形（礫支持）でインブリケーションもみられます。浅海化したことを示す渥美層群の最上部層で、杉山砂部層に整合的に重なり、天伯原面をつくっています。上位には主に 1～2m の厚さの赤褐色土壌（風成土壌）が載っています（右図）。離水後、天伯原面を形成したと推定されます。



参考文献

- 木村一朗・細野隆男・中尾宜民・新井房夫，1983，伊勢湾西岸地域および渥美半島における始良 Tn 火山灰層と段丘の層位関係（予報）．愛知教育大研報，32（自然科学編），175-186.
- 村松憲一，2019，愛知県の地質とジオサイト 人と大地との関わり 第二版.189p.
- 中島 礼・堀 常東・宮崎一博・西岡芳晴，2008，豊橋及び田原地域の地質．地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅），産総研地質調査総合センター，113 p.
- 中島 礼・堀 常東・宮崎一博・西岡芳晴，2010，伊良湖岬地域の地質．地域地質研究報告（5 万分の 1 地質図幅），産総研地質調査総合センター，69 p.

【村松憲一】